

令和7年度 全国学力学習状況調査について

4月17日に、6年生を対象に実施された「全国学力学習状況調査」の結果が、文部科学省より発表されました。今年度は、国語科・算数科・理科の3教科で行われました。また、生活習慣や学習習慣・意識に関する「質問紙」もあり、正答率との相関を見ることができます。

算数科と理科において、今年度の本校の平均正答率は、全体では2教科とも全国平均とほぼ同等でした。しかし、国語科については、全国平均をやや下回りました。また、それぞれの教科の内容ごとに見ていくと、全国平均を下回る領域（問題形式）もありました。校内において結果分析を行い、更なる学力向上に向けて取り組んでまいります。

【国語科】

- ・学習指導要領の内容「知識及び技能」の領域では、「我が国の言語文化に関する事項」については、全国平均を上回りましたが、「言葉の特徴や使い方に関する事項」では、平均を下回りました。語彙を増やし、適切な記述ができるよう、ドリル学習等の充実を図っていきます。
- ・「読むこと」については、全国平均をやや下回りました。授業の中で、これまでの読書経験から、内容や表現を想像、分析、比較、対象、推論などによって相互に関連付けながら、文章を読み取るなどの指導を大切にし、この領域の向上を図ります。

【算数科】

- ・「数と計算」、「測定」の領域で、全国平均を上回りました。中でも、示された資料から必要な情報を選び、数量の関係を式に表して計算する問題や、はかりの目盛りを問う問題については、正答率が全国平均を上回っています。
- ・今後も算数科の学力の定着、向上を図るため、複数の資料から必要な情報を正しく読み取り、答えを求めること、また、問題を解くだけでなく、方法や理由を問うことで、その過程を説明する力を高めていきます。

【理科】

- ・学習指導要領の内容「粒子」を柱とする領域で、全国平均を上回りました。中でも「水の状態変化」について、自然界の現象と関連して考える問いについて、正答率が全国平均を上回っています。
- ・理科では、観察や実験などに関する技能を身に付けるだけでなく、既習の内容や、生活経験をもとに、根拠のある予想や仮説を考える力や、主体的に問題を解決しようとする態度を育て、実感を伴った理解を図ることができるよう、指導をしてまいります。

【質問紙調査】

- ・9割の児童が、食事や睡眠など「規則正しい生活をしている」「いじめは、どんな理由があってもいけないこと」「人の役に立つ人間になりたい」と回答しています。また、この部分は、全国平均よりも、高くなっています。
- ・「1日あたりの家庭での学習時間」については、全国平均とほぼ同等です。学校でも、自主学習の推進など、家庭学習の定着を図るべく、指導を続けます。ご家庭でも引き続き、計画的に学習に取り組んでいるか確認していただき、頑張っているときには褒めて励まし、成長につなげてまいります。